

台湾寶山郷訪問団が表敬訪問

寶山郷郷長や議員団と町が交流

8月1日、TSMC本社が立地する新竹サイエンスパークを域内に持つ台湾寶山郷から、郷長や議員団が大津町を訪れました。金田町長は歓迎のあいさつを述べ、お互いの町の状況を説明しました。TSMCの進出に伴う渋滞問題や、環境問題、人口の増加などについて意見交換を行い、邱振瑋郷長は「寶山郷が持っている知識や経験を共有し、交流を深めていければと思います」と述べました。



ホウサンキョウ チョウジンウェイ
寶山郷 邱振瑋郷長をはじめとした訪問団の皆さん

大津と世界をつなぐために

新国際交流員が就任しました

8月13日に新しい国際交流員としてサバナ・エリスさんが就任しました。アメリカ合衆国出身のサバナさんは、姉妹都市であるヘイスティングズ市の大学で国際交流学やアートを学ばれた後、大津町に来られました。「大津町の方はみなさんとても親切です。大津町で仕事をすることをとてもうれしく思っていますし、将来が楽しみです」と語っています。今後は、日本の文化に触れながら大津町と世界をつなぐために尽力されます。



町の新しい国際交流員として着任したサバナ・エリスさん

環境保全・創造の活動をたたえて

第33回くまもと環境賞表彰

第33回くまもと環境賞の表彰式が、6月17日に県庁で行われ、株式会社もやいネット真城が部門賞(くまもと水の国賞)を受賞しました。これは、環境の保全・創造に関する活動に顕著な功績があった人たちの功績をたたえるため表彰するもので、湧水地の保全活動や水田オーナー制度による農地保全活動、大津北小の生徒を対象とした地下水保全や水田の多面的機能について学習するための農業体験の実施などが認められての受賞となりました。



木製の賞状を受け取る
⑥株式会社もやいネット真城 吉良登美雄代表取締役

「こども手帳」贈呈式

日本公衆電話会から町内の小学生に贈呈

7月5日に、町教育委員会にて公益財団法人日本公衆電話会よりこども手帳が贈呈されました。こども手帳は日本公衆電話会によって作成されており、子どもたちが交通事故や犯罪などから身を守ることを、自ら考え、行動できるようになることを目指しています。贈呈されたこども手帳は、町内の小学4、5、6年生約1,300人に贈呈されます。日本公衆電話会熊本支部長の本田秀昭さんは、「安全や防犯教育などの一助として、授業など有効にご活用いただければ幸いです」と述べました。



こども手帳のほか「171サービス」の周知用ツールを
寄贈していただきました

2024パリオリンピック パブリックビューイングを開催！

8月3日と10日に、町文化ホールで大津町ゆかりの選手を応援するためパブリックビューイングを開催し、大津町から熱い応援を送りました。パブリックビューイングは8年ぶり。会場には等身大パネルや応援グッズなどを展示し、応援に来た人たちは記念撮影をしていました。

8月3日は古賀紗理那選手(女子バレー)の応援。試合はケニアに対し3-0でストレート勝利を収めました。残念ながら決勝トーナメント進出はなりませんでした。日本女子バレーチームのキャプテンとして戦う古賀選手の姿に多くの人が感動や勇気をもらいました。

8月10日は赤崎暁選手(男子マラソン)の応援。初出場ながら自己ベストを大きく更新する2時間7分32秒で見事6位入賞を果たし、会場の声援は熱を帯びていました。両選手は大津中出身。観戦していたバレーボールチームや陸上クラブの子どもたちは活躍している姿に「自分もオリンピックに出られるような選手になりたい」と目を輝かせていました。



JVA2024-06-080

©AgenceSHOT



パブリックビューイングには200人以上が集まりました



©2010熊本県くまモン 令和6年8月10日撮影
サプライズゲストのくまモンと一緒に応援



赤崎選手のサインをかけて
からいもくんとジャンケン大会

企業と共に住みやすい町へ

企業版ふるさと納税贈呈式

企業版ふるさと納税の贈呈式を7月19日に役場で行い、株式会社ウチダ・フォーラム(本社：熊本市)の内田浩次代表取締役から目録が贈呈されました。町の地方創生への取り組みに対する支援に対し、金田町長から感謝状を贈呈しました。寄附金は大津町・まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるインクルーシブな社会づくりに向けたみんなの公園プロジェクト事業に活用します。内田代表取締役は「地域の発展のために活用いただきたい」と述べました。



(株)ウチダ・フォーラム 内田浩次代表取締役(前列右から2番目)

東海大学と包括連携協定

産官学連携で地域社会の発展、人材育成へ寄与

7月19日、東海大学熊本キャンパスおよび阿蘇くまもと臨空キャンパスと大津町は連携協力に関する包括協定を締結しました。これは、キャンパス間の結節拠点である大津町と大学が人的交流や地域活性化、地域産業、教育文化、スポーツ振興などについて連携協力し、さまざまな分野における地域社会の発展や、人材育成に寄与することを目的としています。今後は、町と大学で連携しながらさまざまな事業を実施していきます。



8月2日に開催された、東海大学産学連携センターの
活動プラン発表会にて、連携の必要性を報告しました